

平成 21 年 4 月 1 日

前回に引き続き、2009 年に発表された高血圧治療ガイドラインに従って「高血圧」についてお話ししたいと思います。

●降圧薬療法

〈第一選択薬〉

- ・第一選択薬としては、Ca拮抗薬、ARB、ACE阻害薬、利尿剤、β遮断薬の5種類。
ARB：アンジオテンシン受容体拮抗薬、ACE阻害薬：アンジオテンシン変換酵素阻害薬

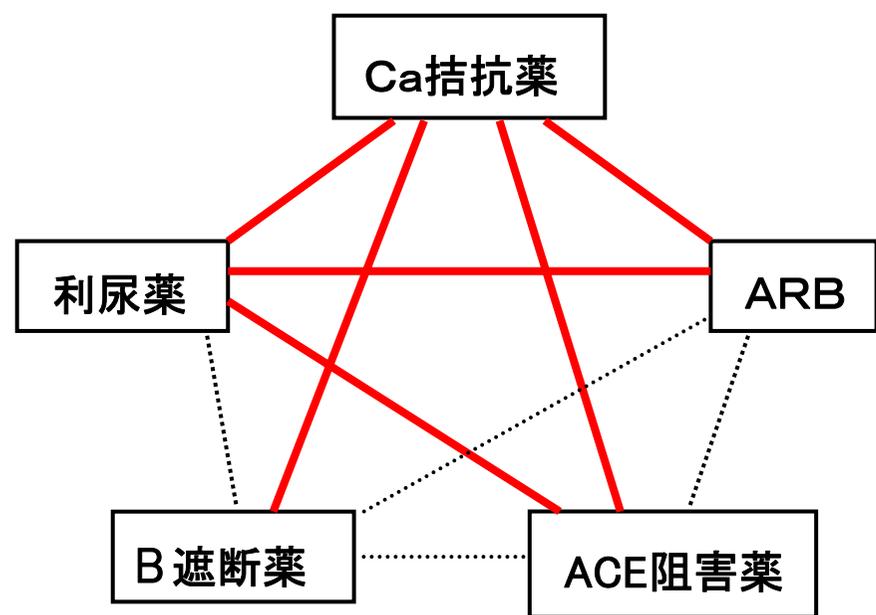
- ・前回のガイドラインには記載されていたα遮断薬は第一選択薬から除外されました。十分なエビデンスがないためです。



〈併用療法〉

- ・大規模臨床試験の結果から次の6通りの組み合わせが優先的併用とされています。

- | | |
|-------------|----------------|
| ① Ca拮抗薬+ARB | ② Ca拮抗薬+ACE阻害薬 |
| ③ Ca拮抗薬+利尿剤 | ④ Ca拮抗薬+β遮断薬 |
| ⑤ ARB+利尿剤 | ⑥ ACE阻害薬+利尿剤 |



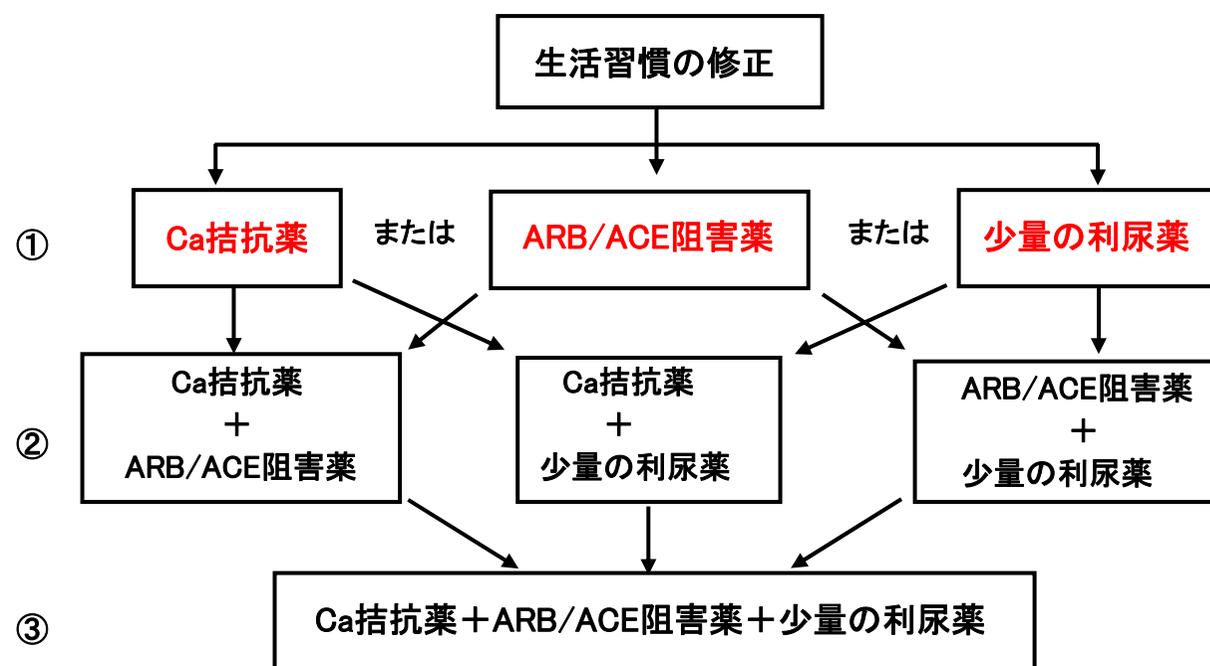
推奨される併用が赤字

●高齢者高血圧

- ・65歳以上の高齢者については、**140/90mmHg未滿を最終目標**として積極的に治療します。この目標値は前回と同様です。
- ・降圧スピードに関しては、副作用の発現に留意し緩徐な降圧を心がけます。
- ・75歳以上で収縮期血圧160mmHg以上の場合は、緩徐な降圧スピードを達成するために150/90mmHg未滿を中間目標として記載しています。
- ・降圧薬治療は、Ca拮抗薬、ARB、ACE阻害薬、少量の利尿剤を第一選択薬とします。一般に常用量の1/2量から開始します。



〈高齢者高血圧の治療計画〉



- ①：第1ステップ（降圧不十分や忍容性に問題がある場合には変更も可）
- ②：第2ステップ 2剤併用
- ③：第3ステップ 3剤併用（症状によりβ遮断薬、α遮断薬も使用可）

〈参照〉

- ・高血圧治療ガイドライン2009
- ・日本医事新報 No. 4422（2009年1月24日）4-5、18-21

